幌延町開基１１０年記念

先人たちの足跡 No.8 「消防組の設立」

開拓の鍬がおろされて以来、野火や失火による山火事や家屋の火災が多発し、開墾火入や土工火入による延焼で山野一体が火の海と化したこともありました。

大正中期になると国鉄宗谷線の工事が始まり、各駅の位置が定まることによって、これまでの川中心の交通から鉄道に移るということで、駅周辺に市街地が形成され、商工業の発達と人口が増加するにつれて、消防組織の必要性が高まってきました。

○私設消防組

幌延町の消防組織は、昭和２年（1927）に私設消防組として問寒別、豊富の２消防組の設立から始まりました。『昭和２年分　幌延村事務並状況報告書』の「14 警備」の中で２箇所に私設消防組が組織され、６月に発会式をあげたと次のように述べられています。

従来本村ニハ警備ニ関スル設備事項トシテハ森林防火組合ノ外ナカリシモ大字幌延村字問寒別市街、大字沙流村字豊富市街ノ二箇所ニ私設消防組ノ組織成リ、六月発会式ヲ挙ゲ一般寄付金ニヨリ器具類ヲ設備シ、年内二回ノ消防演習ヲ行フ等相当活動ヲ為シタリ。

名　称	組織				計
	組　頭	部　長	小　頭	消防手	
豊富消防組	1	ナシ	2	28	31
問寒別消防組	1	1	3	28	33

幌延消防組は２年遅れて昭和４年に設立、昭和７年には雄信内消防組も設立されましたが、村内いずれの消防組も私設であったことから、関係者はもちろん、一般住民の負担は大きかったですが、消防に寄せる関心は高かったようです。

昭和５年１月には天塩警察署長から村長に問寒別、幌延、豊富、兜沼の４私設消防組を公設にするよう村会で諮ってほしいと要望してきました。村は、同年２月の村会に提案しましたが財政上不可能として、各消防組に 100 円の補助にとどめ、公設としませんでした。

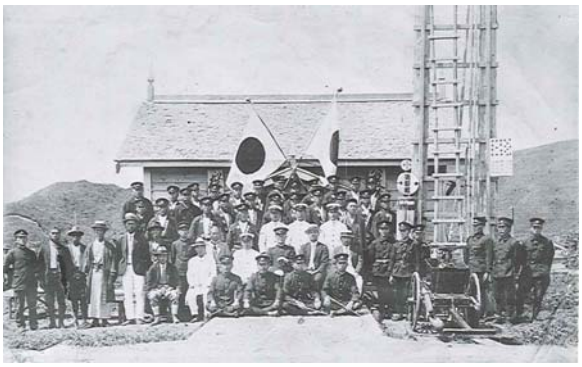
公設幌延消防組

○公設消防組

昭和６年（1931）４月には村会議員３名の連名で消防組を公設とする建議案と、私設消防組頭連名による請願書が村長に提出されました。このように世論が高まり、人口増加に伴い市街地の発展がめざましく、消防組の使命が重大となったので、同年５月 21 日の村会において幌延、問寒別、豊富、兜沼の４消防組を公設消防組とすることを提案し、原案とおり可決されました。

この時に提出の組織は次のとおりです。

名　称	設置編成区域	人員		
		組　頭	小　頭	消防手
幌延消防組	幌延村内幌延市街地区同接続地	1	3	33
問寒別消防組	幌延村内問寒別市街地区同接続地	1	3	29
豊富消防組	幌延村内豊富市街地区同接続地	1	3	29
兜沼消防組	幌延村内兜沼市街地区同接続地	1	3	28



公設雄信内消防組

昭和９年には雄信内消防組が公設になりましたが、昭和 14 年に幌延村警防団第１分団に吸収されました。

次号では、「警防団と消防団」について掲載します。

このシリーズで使用した写真の利用又は新幌延町史の購入（１冊 5,000 円、送料別途）をご希望の方は、役場までお問い合わせください。

お問い合わせ先　役場総務課企画振興グループ 電話01632-5-1111（内線222,223）